

色リングでおしゃれに自分演出

歯列矯正カラー

金真の色が目立ち、おしゃれとはほど遠いイメージが強かった歯列矯正。いま、技術の進歩で装置は小さく、色もカラフルになっている。鹿児島市内の歯科医院を訪ねた。

鹿児島市内の歯科医院訪問

金真やプラスチック、しつぽ正しい位置に動かセラミックでできたフックという土台を「ラケット」という土台を一つ一つの歯に着け、中に、細い針金やゴムで色リングは約五年前から一般的になってきた方法

取材 曾山 美幸



色見本を見ながらこの日着けるリングを遊ぶ
鹿児島市東千石町の曾山歯科医院

生活、気分に合わせ配色

だ。成人女性の来院が多い東千石町の曾山歯科医院は二十四色をそろえており、パステル系の水色やピンク、ミントグリーンが人気。クリスマスなどには赤や緑の原色や、黄色で元気に自分を演出する人もいる。意外と便利なのが黒。色ムは食べ物の汚れを吸着して次の通院までに多少色あせてしまうが、黒は変化しない。また、あえて金色のラケットを着けて口元をゴージャスに飾る人もいます。

西伊敷三丁目の森山さやかさん(こは矯正を始めて一年半。毎回色を替えて楽しんでいる。この日は黄色と水色の二色を選んだ。一つのラケットにリングをかけるのは数秒。数分でさわやかな口元が完成した。逆にセラミックのラケットに透明やベージュ系のリング、肌の黄みが強い日本人になじむビチチゴールドの針金の組み



ラケットという器具に一個ずつリングを着けていく



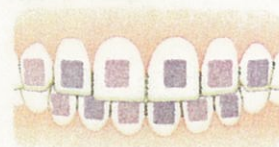
黄色と水色でさわやかに仕上げた森山さやかさん

数分でさわやか口元完成

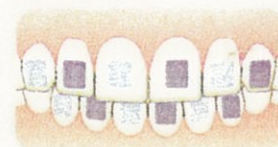
かわいらしいパステル



上品・エレガント



爽やか・クール



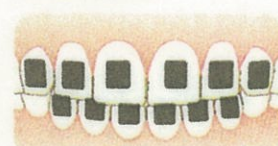
個性的・ポップ



多色使い虹ふう



黒1色で長持ち



合わせなら、着けていることをほとんど感じさせない。

同医院の矯正担当歯科

基本はやはり歯の健康



希望の色を書き込むシート。次は何色にするか考えるのも楽しい—鹿児島市中央町の田中矯正歯科

曾山歯科医院で矯正治療を受けている最高齢は八十歳の女性。それができるのも二十五以上産る自分の歯があるから。やはり歯は大事なのだ。(こは)が、鹿児島に初めて

曾山山敬子さん(こは)は「患者のライフスタイルに合わせて要望を受けるようにしているぞうだ。一九八(昭和五十五)年開業の田中矯正歯科(中央町)でも薄いピンクや水色が主流。副院長の上ノ堀七恵さん(こは)は、ミニチュアシヤンのCHARA以降、若い人がテレビでも抵抗なく矯正装置を着けるようになってきたという。

シャラボワや浅田真央のライバル金妍児も受けている矯正治療。海外では子どもに受けるのが一般的だが、日本ではまだ抵抗がある。「影響力のある人が普通に着けてくれば、一般の人にも受け入れてもらいやすい」と話す。

院長の田中興さん(こは)が、鹿児島に初めて

矯正専門の医院を開業した当時は、認知度も低く来院者もほとんどなかった。同じころに開設された鹿児島大学の歯学部が軌道に乗るにつれ、矯正の重要性も一般に理解されるようになってきたという。

装置の形や材質も改良され、よりコンパクトに目立たなくなってきた歯列矯正だが、まだまだ痛みを伴い、食事もしにくい。歯も磨きづらく治療期間もかかる。「色を揃うことで、少しでも楽にみながら治療してもらいたらうれしい」と上ノ堀さんは語る。